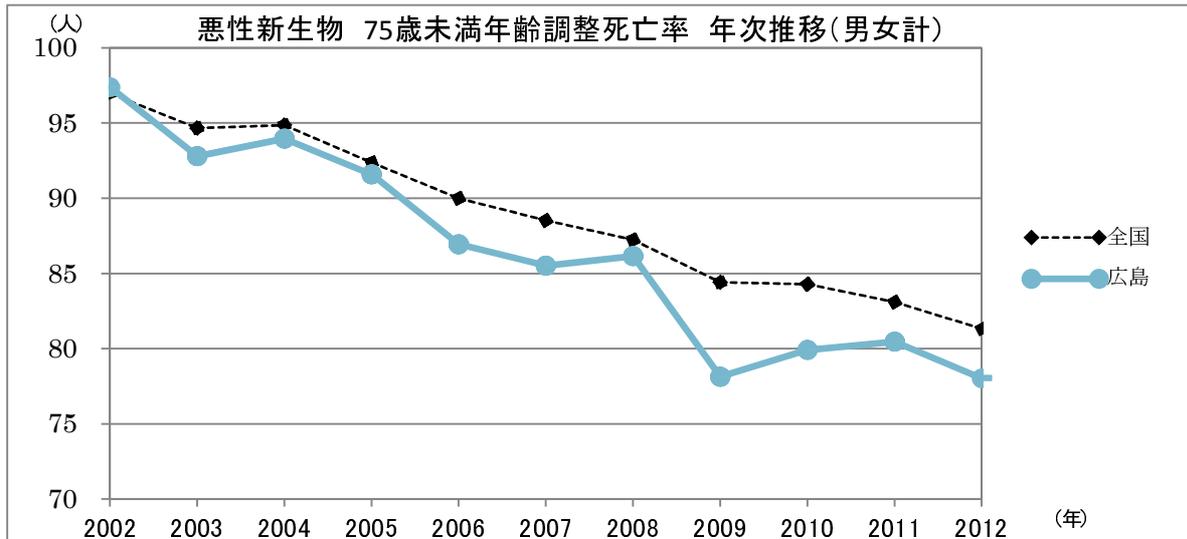


年齢調整死亡率（全体目標）の状況について

第2次計画の目標 = 75歳未満のがんによる年齢調整死亡率の10%減少
 H23(2011)年 80.5人 ⇒ H28(2016)年 72.5人

○広島県の「75歳未満のがんによる年齢調整死亡率」の推移

[人口10万人当たり死亡者数]



	H18 (2006)	H19 (2007)	H20 (2008)	H21 (2009)	H22 (2010)	H23 (2011)	H24 (2012)	H28 (2016) 【目標】
男女計 (広島県)	87.0 (-)	85.5	86.2	78.1	79.9	80.5 [-] (▲7.5%)	78.0 [▲3.1%] (▲10.3%)	72.5 [▲10%]
男	117.4 (-)	115.1	113.6	103.5	106.7	106.6 [-] (▲9.2%)	102.7 [▲3.7%] (▲12.5%)	95.9 [▲10%]
女	59.5 (-)	58.6	61.4	55.2	55.7	56.9 [-] (▲4.4%)	55.3 [▲2.8%] (▲7.1%)	51.2 [▲10%]

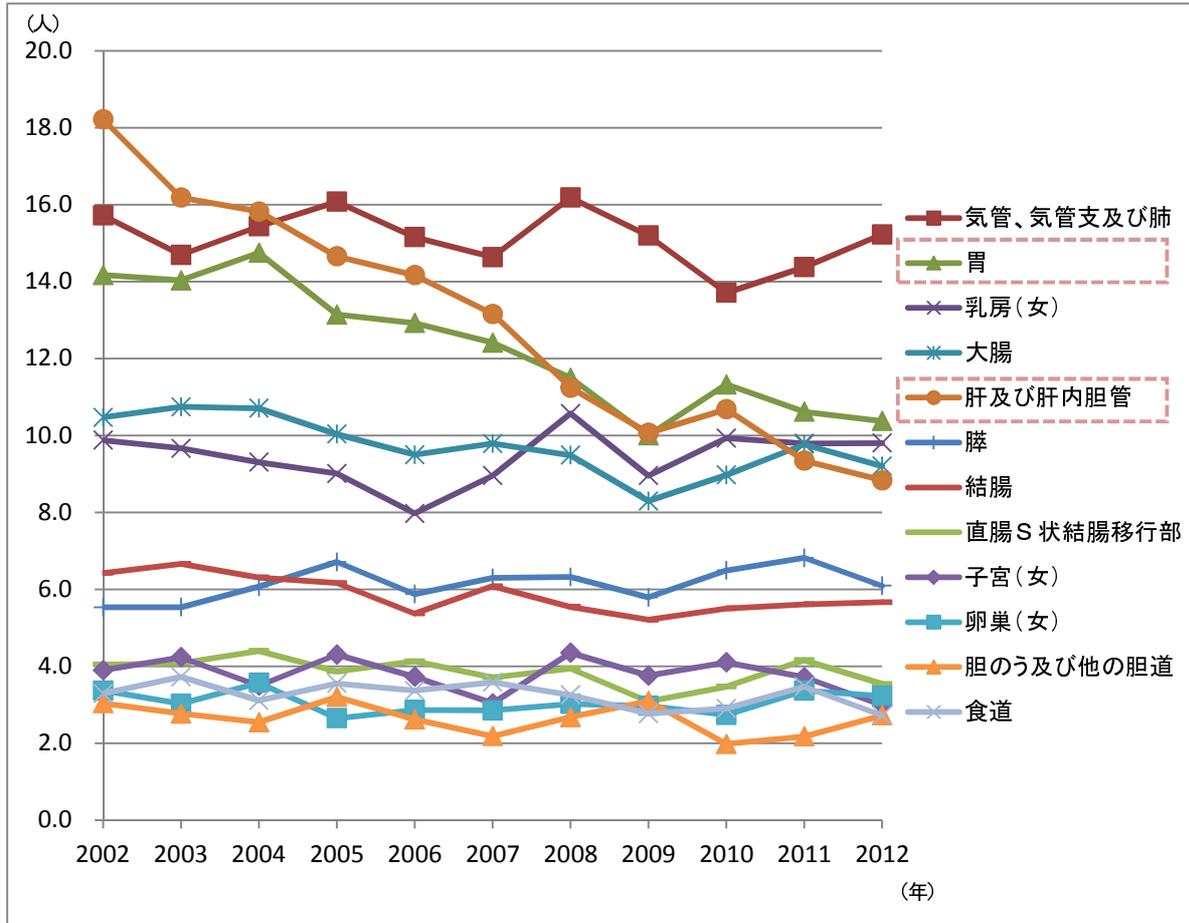
【出典】 国立がん研究センターがん対策情報センター

注：() はH18年 [] はH23年と比較した場合の増減割合

・「75歳未満のがんによる年齢調整死亡率」は、平成23(2011)年から平成24(2012)年にかけて、男女計及び男・女のいずれの区分においても3%程度減少している。

なお、「75歳未満のがんによる年齢調整死亡率」は中・長期的には減少傾向にあり、男女計及び男性では、国立がん研究センターで算出している平成7(1995)年以降、最も低い数値となっている。

○部位別「75歳未満年齢調整死亡率」の年次推移（広島県・男女計）



注：「乳房」「子宮」「卵巣」は女性の数値

・平成14（2002）年から平成24（2012）年までの推移をみると、10年間で「肝及び肝内胆管」は18.2人が8.8人に半減し、「胃」は14.2人が10.4人となり、いずれも減少傾向にあるが、これら以外の部位は概ね横ばいとなっている。